

穴埋め問題（解答）

第3章 日常の家畜の管理作業

「1. 農場の衛生管理・安全管理」

1. 農場の人が注意すること

- ・ 畜舎に出入りする時には（ 長靴 ）や作業服などの（ 消毒 ）を十分に行います。
- ・ 家畜の（ 状態 ）を注意深く観察して、異常だと感じたら農場主に報告します。
- ・ （ 野鳥 ）やネズミなどの野生動物が畜舎へ侵入するのを（ 防止 ）します。
- ・ （ ハエ ）はウイルスや病原性細菌を媒介するとともに、ハエの（ 幼虫 ）の発生は野鳥を集めることにもなるので、ハエの（ 駆除 ）は大切です。＝【P115】＝

2. 消毒用噴霧器

手動式で、車両の場合には車の（ 周囲 ）や（ タイヤ ）の消毒をおこない、人の場合には（ 足元 ）の消毒をおこないます。消毒液の（ 補充 ）が常に必要です。

＝【P117】＝

第3章 日常の家畜の管理作業

「2. 乳用牛」

1. 飼料倉庫

- ・飼料倉庫には野鳥や（ ネズミ ）が入らないように注意します。
- ・常に清掃して（ 清潔 ）にしておきます。
- ・飼料に（ カビ ）が生えていないかを確認します。

= 【P119】 =

2. 牛舎の換気

- ・寒い時期（ 隙間 ）風を防ぎます。
- ・暑い時期は牛舎の（ 通風 ）や換気に気をつけて、十分な空気の（ 流れ ）を作ります。
- ・暑い時期には（ 直腸 ）温度が39℃以上になる場合も多く、呼吸数が増加し、飼料摂取量も（ 低下 ）します。 = 【P120】 =

3. 乳頭の清拭

- ・（ 消毒液 ）に浸したタオルで乳頭を清拭します。
- ・清拭の目的は、「（ 搾乳刺激 ）を与えること」と「乳頭表面の殺菌」です。
- ・タオルは1頭に（ 1枚 ）以上用意し、使い終わったものは（ 別の ）バケツに入れておきます。
- ・布のタオルではなく、使い捨ての（ ペーパータオル ）を使用する場合もあります。 = 【P123】 =

第3章 日常の家畜の管理作業

「3. 肉用牛」「4. 豚」

1. 呼吸の状態

以下のような場合には呼吸器病が疑われます。

- ・（ 開口 ）呼吸、努力性呼吸
- ・（ 呼吸数 ）の増加
- ・腹式呼吸 = 【P128】 =

2. 発咳の時

（ 誤嚥 ）（間違って異物を飲み込んでしまう）や呼吸器病が疑われます。

= 【P128】 =

3. 子豚哺乳・育成時の暖房について

子豚の適温は高く、まだ（ 体温調整 ）能力が低いため十分な（ 暖房 ）が必要です。適温域は（ 成長 ）とともに変化するため、適切か否かをその都度判断します。出生時の適温は（ 36 ）℃、1週間たつと（ 30 ）℃、2週で28℃、3週で26℃と徐々に低くなります。 = 【P130】 =

4. 子豚の管理の注意点

子豚は疾病にかかりやすく、（ 消化器 ）異常（下痢症）と呼吸器異常（ 肺炎 ）をおこすことが多いです。また、母豚からの（ 寄生虫 ）によって発育不良もおこるため、母豚である繁殖豚の（ 駆虫 ）も重要であり、ワクチン接種も（ 母子 ）を連動させて摂取します。

= 【P131】 =

5. 暑熱時の注意点

子豚は寒さに弱く、成長した肥育豚、繁殖豚は（ 暑さ ）に弱いです。肥育豚、繁殖豚の飼育環境は約（ 20 ）℃が適正です。適温域の異なる繁殖豚と子豚は、（ 分娩 ）前後の高温によって繁殖雌豚（母豚）が影響をうけると、子豚に対してもその（ 悪影響 ）が及びます。

暑熱時には、扇風機による（ 強制 ）通風をおこない、とくに（ 床面 ）付近の通風を維持します。（ 豚体 ）に当てることと、湿気を取り除くためです。風速は（ 1.0 ） m/秒以上を目安とします。豚舎内での風向が（ 一定 ）方向になるように換気輪道に注意して配置します。

= 【P133】 =

第3章 日常の家畜の管理作業

「5. 養鶏（採卵鶏と肉用鶏）」 「6. その他」

1. 湿度管理

初生ひなは、湿度（ 65 ）%の環境から徐々に室内湿度に対応できるように慣らしていきます。入すう時に（ 35 ）℃の下で湿度65%を保つには、どの育すう器でも（ 水盤 ）を置くなどして（ 加湿 ）する必要があります。しかし、1週間ほど経過すると、（ 排糞 ）量が増加し、糞からの水分蒸発量が多くなるので、これに合わせて（ 注水量 ）を減らします。10日目ごろからはむしろ（ 乾燥 ）させるようにします。 = 【P135】 =

2. 断嘴（デビーク）の方法

育すう期間中にはひなのなかで（ 尻つつき ）がしばしばみられます。ひなが小さいうちは尾の付近が傷つく程度ですみませんが、初産前になると、（ 腸 ）までつつきだすことが多く、しかも（ 短時間 ）に思わぬ被害をうけます。これらの被害を防止するために（ 断嘴 ）（デビーク）をおこなうことがあります。

断嘴は、断嘴器（デビーカー）を用いて、上下のくちばしを（ 焼き切る ）もので、採卵鶏の場合、（ 3～10 ）日齢でおこなうことが多いです。 = 【P138】 =

3. 飼料の受け入れ

飼料タンクまたは保管庫は、飼料搬入前に（ 清掃 ）されており、飼料搬入車は、（ 農場入口 ）などで適切な消毒をおこなわなければなりません。飼料はその外観、（ 色 ）、風味及び（ 品質 ）に異常がないことや、（ 異物 ）が認められないことと、（ サルモネラ ）検査を定期的の実施してる工場由来の飼料であることが必要です。

また、配合されている飼料原料、飼料（ 添加物 ）の名称及び出荷制限期間を把握していることが重要です。 = 【P139】 =

4. 軽種馬

①育成牧場の管理

- ・騎乗調教の強度に合わせて、（ 濃厚 ）飼料の給与量を増やしていきます。

- ・騎乗調教が進んでいる馬は、蹄に（ 蹄鉄 ）を装着するので、じゃれあってケガをしないよう（ 集団放牧 ）は行わず、（ 1頭ずつ ）小さな放牧地（パドック）に放牧することが一般的です。

= 【P144】 =